

芸 術

1 芸術科の学習指導の改善

芸術科においては、生徒の「生きる力」を育成する観点から、知識や技能の習得のための指導にとどまらず、芸術の幅広い活動を通して、生徒の感性を高めるとともに、美しいものに素直に感動する豊かな情操や他者の気持ちを思いやる優しさなどを育み、調和のとれた人間形成に寄与していくことが求められている。

そのためには、生徒が感性を豊かに働かせ個性を生かし、多様な観点から芸術に対し主体的にかかわりをもっていけるよう、生徒の興味・関心に応じた選択履修や発展的な学習を可能にする教育課程を編成することが重要である。

また、国際社会に生きる日本人としての自覚を深める観点から、我が国やアジアをはじめとする諸外国の芸術についての関心や理解を深めるため、表現活動や鑑賞活動の一層の充実を図ることが大切である。

指導に当たっては、各科目の特質を踏まえ、学校の実態に応じて、学校図書館やコンピュータ等をはじめ、地域の文化財、文化施設、社会教育施設及び地域の人材の活用を図るなど、指導計画の工夫・改善を行うことが大切である。

2 芸術科の評価の工夫

(1) 評価の基本的な考え方と改善の視点

評価に当たっては、学習の実現状況の評価を可能な限り客観的に行い、その結果を生徒に伝え、一人一人が現在の学習の状況をはじめ、自らの能力やよさ等を認識できるとともに、次の学習への課題や目標を持てるよう配慮することが大切である。

また、評価の改善に当たっては、次の三つの視点から検討を加える必要がある。

ア 生徒が自らの学習状況を的確に把握するとともに、今後の学びの目標や学習の重点の置き方について自己理解し、学習の改善を図ることのできるような評価であること。

イ 生徒個々の学習状況についての多面的で適切な情報が得られ、指導計画、指導方法、評価等の改善に結びつけることのできる評価であること。

ウ 教師・生徒・保護者が信頼の上に共に合意できるような客観性と結果責任を持つ評価であること。

(2) 評価の観点と趣旨

評価の観点と趣旨は次のとおりであるが、それぞれの観点と趣旨を十分に踏まえ、生徒個々の取組状況やよい面を累加的に記録として残しておき、具体的な学習の様子がわかるような評価をする必要がある。

また、最終的に示される評定もそこに至る過程が重要であり、指導によって蓄積された資料は、評価や評定の明確な根拠となっていなければならない。

観 点	趣 旨
●関心・意欲・態度	芸術を愛好し、芸術文化を尊重するとともに、個性を生かして意欲的、主体的に表現や鑑賞の活動を行い、その喜びを味わおうとする。
●芸術的な感受や表現の工夫	感性を働かせて芸術のよさや美しさを感じ取り、創造的に表現を工夫する。
●創造的な表現の技能	創造的な芸術表現をするために必要な技能を身に付けている。
●鑑賞の能力	芸術を幅広く理解し、そのよさや美しさを深く味わう。

3 学習指導案の作成

(1) 「音楽Ⅱ」の学習指導例

題材	指導事項					評価の観点			
	表	現	鑑	賞		関心・意欲・態度	芸術的感受や表現の工夫	創造的な表現の技術	鑑賞の能力
クラシックギターによる「禁じられた遊び（ロマンス）」の演奏（3/4時間）	学	視奏力の伸長	曲の構成及び曲想の把握と表現の工夫	合奏における表現の工夫	声や楽器の特性と表現上の効果	我が国の伝統文化の種類の特微	世界の諸民族の音楽と特微		
いろいろな楽器の体験と奏法の工夫									
<p>ギターは、その演奏技法の習得により、青年期に興味・関心を抱いたポピュラー音楽等の歌唱や他楽器の伴奏をはじめ、様々な形態のアンサンブルなど、身近な場面で演奏を楽しむことができ、生涯にわたって音楽を愛好する心を育てることに適した楽器である。</p> <p>本題材は、音楽Ⅰで習得したギターの基本的な奏法に加え、スペインを中心に発展したクラシックギターの奏法を学習する中から、音楽の要素・構造（メロディー・リズム・ハーモニー）を感じ取り、さらにビブラート等の応用的な奏法が情感に与える影響を考えさせるねらいで設定した。</p>	指	習	形	態					
<p>・拍子、連符からリズムについての読譜力をつけ、メロディの視奏力に発展させる。</p> <p>・演奏のスタイルを理解させ、表現の中に曲想（ビブラート等）を加えることにより音楽に情感が加わることを理解させる。</p> <p>・スペイン民謡がギター音楽に姿を変え、映画の挿入音楽として用いられたことがどのような効果をもたらしたのかを考えながら鑑賞する能力を身に付けさせる。</p>	教	材							
<p>「禁じられた遊び」（スペイン民謡、イエベス編、教師作成楽譜）の前半（ホ短調）部分、VTR一式、ガット弦による標準的クラシックギター</p>	指	導	計	画					
<p>○総計4時間（1時間×4回）</p> <p>・楽譜から4分の3拍子による主旋律と低音、3連符による和音を理解する。左手のポジショニングと右手の奏法を練習する。1弦による主旋律を練習させる。（1時間）</p> <p>・主旋律班と低音班に分かれて合奏する。主旋律班は3連符も演奏できるように練習させる。班の分担を交代し、すべてのパターンを演奏できるように練習させる。（1時間）</p> <p>・前時までの異なった3種類の旋律を一人で演奏できるまで指導する。3～4小節に区切って部分練習させる。映画音楽としての「禁じられた遊び」を鑑賞し、曲想（ビブラート等）がどのような情感を与えているのかを考えさせる。（1時間）本時</p> <p>・16小節を通して演奏できるよう練習し、班による演奏発表を行う。（1時間）</p>									
	生徒の活動	教師の活動	指導上の留意点						
導	○前時に習得した奏法を確認し、主旋律班と低音班による合奏を行う。	○前時までの左手のポジショニングを確認させ、拍子とリズムを意識させる。	○チューニングが合っているか確認する。 ○ピアノによるガイドメロディーを演奏する。	班	○				
課	○楽譜の中から3種類の旋律を抜き出し、それらを独奏できるよう各自が練習目標を設定する。	○小節ごとの左手のポジショニングを理解させる。	○教師の模範演奏に注目させる。	全	○	○			○
展	○反復した部分練習の中から苦手な部分を抜き出し、できるだけ長い小節を独奏できるようにする。 ○生徒相互のアドバイスにより、奏法の確認をする。	○個人の能力に応じたテンポ設定による指導をする。	○机間巡視をしながら、到達度に応じたアドバイスをする。	個					○
開	○映画「禁じられた遊び」の冒頭部分を鑑賞し、演奏時のアゴギクが映画にどのような効果を与えているかを考える。	○原曲及び映画のあらすじを説明し、メロディーの持つ情感を理解させる。	○VTRを操作（適正な音量調節、一時停止）して解説、発問をする。	全	○	○	○	○	○
確	○ビブラートの奏法が音楽に情感を加えることを理解する。	○1弦のみによる主旋律の演奏時はビブラートを意識するよう指導する。	○映画の中で用いられた奏法（ビブラート）を教師が再現して演奏する。	全	○	○			○
整	○16小節を通して演奏する。 ○次時の学習内容を確認する。	○自分が演奏している3種類の旋律をよく聞きながら弾くよう指示する。 ○曲を通して演奏するとともに全員の前で発表会を行うことを予告する。	○適正なテンポを設定し、ピアノによるガイドメロディーを演奏する。	全		○			

学習形態（全：全体の活動 班：班単位の活動 個：個人単位の活動）

(2) 「美術 I」の学習指導例

題材	「絵画・四季を通じて」 (3~4/14時間)			指導事項				評価の観点										
	表	現	鑑	賞	関心・意欲・態度	芸術的感受や表現の工夫	創造的な表現の技術	鑑賞の能力										
題材設定のねらい	<ul style="list-style-type: none"> 四季それぞれの特徴や変化を感じさせ、各自が好む仮想風景を描かせる。 季節の彩りや自然の美しさが生活と密接に関わっていることに気づかせるとともに、日本人の自然観や美意識について考えさせる。 主題にそったイメージを生成させ、心情や意図を伝えるための創造的な表現を目指す。 			学 習 形 態	表 現 形 式 の 選 択 と 創 造 的 な 表 現 の 構 想	感 じ 取 っ た こ と ・ 自 己 の 考 え ・ 夢 や 想 像 な ど を 基 に し た 主 題 の 生 成	テ ッ サ ン ・ 色 彩 ・ 構 成 ・ 材 料 や 用 具 の 生 か し 方 な ど の 技 能	意 図 に 応 じ た 多 様 な 表 現 方 法 の 工 夫	美 術 作 品 の よ さ や 美 し さ	作 者 の 心 情 や 意 図 と 表 現 の 工 夫	生 活 や 自 然 と 美 術 と の 関 連	日 本 の 美 術 の 歴 史 と 表 現 の 特 質	評 価 の 観 点	関 心 ・ 意 欲 ・ 態 度	芸 術 的 感 受 や 表 現 の 工 夫	創 造 的 な 表 現 の 技 術	鑑 賞 の 能 力	
指導目標	<ul style="list-style-type: none"> 自然やものをよく観察したりデッサンを通じて、その美しさやよさに気づかせる。 資料やデッサンをもとに創造性ある画面構想を練る。 空間、均衡、動勢などの造形的諸要素を理解させ、構成力を高めさせる。 色の性質や働きについて理解させ、イメージを明確にさせる。 表現意図に応じた、材料や用具を効果的に活用させる。 																	
教材	風景画集・写真集・雑誌等の参考資料、製作記録カード、クロッキーブック 油彩 (F4 ボードキャンパス) 水彩、鉛筆、パステル、ペン (B4 イラストボード)																	
指導計画	○総計14時間 (2時間×7回) ・教科書や画集・写真集などから、風景や四季の風物をテーマとした作品を鑑賞し、アイデアの発想ための資料づくりをする。 (2時間) ・アイデア・デッサンをもとに原画を決定し、製作計画をたてる。 (2時間) 本時 ・製作I (下書き)、製作II (着色、描画) を計画的に展開する。 (8時間) ・作品発表会を実施し、意見や感想をまとめる。 (2時間)																	
	生徒の活動	教師の活動	指導上の留意点															
導 入	○前時の授業内容の確認をする。	○前時の参考作品の鑑賞と資料をもとに製作の意欲を高めさせる。	○製作記録カードを配布する。	全	○													
	○本時の学習内容について理解する。	○本時の学習展開が効果的に進むように時間配分を考えさせる。	○学習展開を板書とプリントで説明する。	全	○													
展 開	○アイデアスケッチ ・どんな仮想風景を描きたいかを考える。 ・自由な描写の中でイメージを明確にさせていく。	○場面設定、構図、色彩などについてラフ・スケッチさせる。	○クロッキー用紙を配布する。	個	○	○												
	○原画の選択決定と、その表現方法 (油絵、水彩など) について考えさせる。	○原画の選択と、それぞれの生徒の表現方法についてアドバイスをする。	○身近に題材があれば観察して表現させる。	個	○	○												
	○作業の手順や使用する材料などの計画を立てる。	○本題材の製作計画を記録カードに記入させる。 (10時間相当分)	○記録カードの記入確認をする。	個	○	○												
整 理	○本時の自己到達度の確認をする。	○適切な自己評価ができるようにする。	○製作記録カードへ記入させる。	個														
	○次の授業内容を把握する。	○各自の必要な用具を確認させる。		全	○	○												

学習形態 (全：全体の活動 班：班単位の活動 個：個人単位の活動)

(3) 「工芸 I」の学習指導例

題材	「プロダクト制作・時計の研究と模型づくり」(1~2/18時間)			指導事項					評価の観点				
	表	現	鑑	賞	関心・意欲・態度	芸術的感受や表現の工夫	創造的な表現の技術	鑑賞の能力					
題材設定のねらい	生活の中で身近に使用されている「時計」の模型づくりを通して、工芸の表現領域の一つであるプロダクト制作を理解させる。 ・用途や機能、生産性を考えた制作のための発想力、構想力を育てる。 ・制作を通して技能や計画性を身に付けさせる。 ・生産のための工芸に対する理解の深化を図る。 ・表現・創造能力を伸ばす。 ・用途を目的とした「ものづくり」の楽しさや喜びを体得させる。			社会生活や身近な環境を心豊かにするための創造的な発想	用途や機能、生産性を考えた制作の構想	材料や用具の活用と制作方法の理解	制作過程における吟味と創意工夫	工芸作品のよさや美しさ	作者の心情や意図と表現の工夫	生活の中にかかされている工芸	作品に見る美意識や手作りのよさ		
指導目標	・ひとつの製品に関する用途や機能の研究を通じて、生活に役立つ「ものづくり」への興味や関心を持たせる。 ・完成予想図を描いたり、模型を作ることにより、材料や用具をうまく活用させ、製作方法を理解させる。 ・構想段階や製作過程における新しいアイデアや工夫をまとめ、発表させる。												
教材	時計、時計カタログ、参考図書、資料ファイル、B3イラストボード2枚、模型制作のための材料・用具												
指導計画	○総計18時間(2時間×9回) ・「時計」の用途や機能を理解させるための資料の収集及び研究をさせる。(2時間) 本時 ・生産性を考慮した「時計」の形体・色彩・構造を考え、製品のためのアイデア・スケッチを行わせるとともに、制作計画を立てさせる。(2時間) ・アイデア・スケッチをもとに模型の制作を行う。(8時間) ・研究の成果と模型の制作過程のまとめをどのように発表するか構想を練り、イラストボードの製作をさせる。(4時間) ・イラストボードと模型を使って個人発表をさせる。(2時間)												
	生徒の活動	教師の活動	指導上の留意点										
導入	○本題材のねらいと課題内容を理解する。 ○本時の授業内容を確認する。	○「時計」をテーマとしてのプロダクト制作であることを理解させる。	○プロダクト制作をより理解させるために、プリントや参考作品を用意する。	全									
展開	○いろいろな時計のスケッチをする。 ○グループ討議をさせる。 ・「時計」の用途や機能、デザインについての自由な意見交換をする。 ・個性的な「時計」を作るためのデザイン的な基本要素について考える。 ○ラフ・デッサンをする。 目的や用途を考え合わせながら(壁掛け、卓上など)、各自の製品の簡単なデッサンを描く。	○スケッチを通じて「時計」に対する興味を持たせ、関心を高めさせる。 ○「時計」に関する認識を深めさせ、プロダクト制作の目的を明確にし意欲を高めさせる。 ○基本アイデアとして明確にとらえさせる。 ○次時(アイデア・デッサン)への制作意欲へつなげる。	○前時に各自の時計を持ってくるように指示する。 ○スケッチ用紙を配布する。 ○レポート用紙を配布し、意見などを記録させる。 ○資料用ファイルを準備する。(すべての資料を各自で保管させる。)	個 班 班 個	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○			
整理	○本時の活動内容をまとめ、発表する。 ○次時の授業内容の確認と準備を行う。	○「制作の記録」に活動内容、感想等を記入させる。 ○アイデア・デッサンのための資料と材料の確認をさせる。	○「制作の記録表」を配布する。	全 全	○ ○	○ ○					○ ○		

学習形態(全:全体の活動 班:班単位の活動 個:個人単位の活動)

(4) 「書道Ⅰ」の学習指導例

題材	漢字仮名交じりの書（3）校歌の共同制作（3～4／8時間）			指導事項							評価の観点					
	題材設定のねらい	指導目標	教材	学習形態	表現			鑑賞				芸術的感受や表現の工夫	鑑賞の能力			
					表現と用具・用材との基本的な関係	漢字と仮名の調和した線質の表し方	字形と文字の大きさと全体の構成	目的や用途に即した形式と表し方	意図に基づいた表現の構成と工夫	日常生活における書への関心と効用	書的美しさと表現効果			日本及び中国等の書文化	関心・意欲・態度	
題材設定のねらい	<ul style="list-style-type: none"> 漢字、仮名の古典の学習で得た技法を応用することで、より豊かな書写的表現を目指す。 身近な「漢字仮名交じり文」として、校歌を取り上げ、それを書くことによって、書の日常化を図る。 グループによる活動を重視するとともに、作品の完成度よりも制作の過程に焦点を当てる。 	<ul style="list-style-type: none"> 既習の古典を応用しながら意図や構想に応じた表現の工夫をさせる。 グループによる話し合いに積極的に参加させ、合作を通して課題の設定、解決への道筋を学ばせる。 相互批評、作品の検討を通して鑑賞力を高める。 	校歌プリント、教科書、資料集、制作カード、先輩の作品 絵手紙用筆、固形墨、墨液、用紙、（半紙、半折1／3、半折）	学習形態	表現	漢字と仮名の調和した線質の表し方	字形と文字の大きさと全体の構成	目的や用途に即した形式と表し方	意図に基づいた表現の構成と工夫	日常生活における書への関心と効用	書的美しさと表現効果	日本及び中国等の書文化	関心・意欲・態度	芸術的感受や表現の工夫	鑑賞の能力	
指導計画	<ul style="list-style-type: none"> ○総計8時間（2時間×4回） ・作品の草稿作り — 構成を決める — （2時間） ・課題の発見と追究 — 書風、古典の応用 — （2時間） 本時 ・作品の完成 — 課題の解決 — （2時間） ・鑑賞と評価 （2時間） 			学習形態	表現	漢字と仮名の調和した線質の表し方	字形と文字の大きさと全体の構成	目的や用途に即した形式と表し方	意図に基づいた表現の構成と工夫	日常生活における書への関心と効用	書的美しさと表現効果	日本及び中国等の書文化	関心・意欲・態度	芸術的感受や表現の工夫	鑑賞の能力	
課題の設定	<p>生徒の活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学習内容を確認する。グループで合作するための構想を話し合う。 ・どのようなイメージの作品にするか。 ・そのイメージに近いと思われる既習の作品はどれか。 ・統一感を出すためにはどうすればよいか。 	<p>教師の活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ○制作カードを確認する。 ○作品例を提示する。 	<p>指導上の留意点</p> <ul style="list-style-type: none"> ○話し合いを成立させる。 ○具体的イメージを補足する。 ○グループごとに課題が立てられるように既習古典の確認と例示を行う。 	全 班	○								○	○	○	
課題の発見と追究	<ul style="list-style-type: none"> ○制作カードに記入する。 ○校歌の冒頭を試書する。（数枚） ○試書作品を検討する。 ・イメージに近いのはどれか。 ・筆圧、速度、墨量、墨の濃さについてどうするか。 ・古典をどのように作品に取り入れるか。 <p>自分の担当部分を練習する。</p> <p>全体構成を確認し合作する。</p> <p>修正点の検討と確認をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・より当初のイメージを強調するためにはどうすればよいか。 ・古典の取り込み状況はどうか。 ・構成や文字の大小は適切か。 <ul style="list-style-type: none"> ○修正点を踏まえ合作する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○書風を意識するように指導する。 ○評価を与えながら机間巡視を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○半紙を使用する。 ○班のイメージに沿って助言する。 ○墨の濃さについても触れる。 ○筆使い、運腕に配慮する。 ○半折1／3を使用する。 ○半折ヨコを使用する。 	個 個 班	○	○								○	○	○
評価	<ul style="list-style-type: none"> ○自己評価をする。（制作カードに記入する） ○グループ評価をする。（制作カードに記入する） ○経過の発表及び今後の課題設定をする。 ○次時の内容を把握する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○最初と変わった点を指摘する。 ○次時につながるような話し合いとなるよう指導する。 ○発表するグループを抽出し、評価と助言を行う。 ○次時の予告をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○話し合いに集中できるように指導する。 ○発表に集中させるように指導する。 	個 班 全						○				○		○

学習形態（全：全体の活動 班：班単位の活動 個：個人単位の活動）

4 質疑応答

問1 芸術科と総合的な学習の時間の関連において、どのようなことに留意すればよいか

芸術科においては、芸術を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、豊かな情操を養うことなどを目標としている。他方、総合的な学習の時間においては、課題設定能力や問題解決能力、総合的な思考力、判断力、応用力、実践力を育成する事をねらいとしている。

総合的な学習の時間において、芸術科と関連が深い学習活動を行う際には、このような目標やねらいの相違を的確に踏まえ、指導計画を作成することが大切である。

また、芸術科で学んだ内容が総合的な学習の時間の活動に生かされるとともに、総合的な学習の時間で身につけた資質や能力が芸術科の学習に役立つなど、相互補完的な関係となるよう配慮することが重要である。

以下に、総合的な学習の時間で生かすことのできる芸術科に関連する学習活動について例を示す。

学習活動例	具体的な活動例
○他の教科・科目及び特別活動等と連携した学習活動	<ul style="list-style-type: none"> ・詩や俳句、短歌等の研究と毛筆表現（国語） ・ポスター、看板、ロゴマーク等における毛筆表現の研究（書道、美術・工芸） ・見学旅行における訪問地の芸術や文化等の調査・研究とそのパネル発表（特別活動） ・学校祭におけるミュージカルや演劇等の台本作り、大道具・小道具の制作、作曲・演奏等（特別活動）
○地域の教育素材を活用した学習活動	<ul style="list-style-type: none"> ・地域のわらべ歌や民謡等の調査・研究及び採譜と演奏 ・地域の民話等の調査・研究及び絵本や紙芝居等の製作、読み聞かせ会等の実施 ・地域の石碑等の調査・研究と拓本採取 ・地域に受け継がれている意匠の色彩や形体の研究
○地域の文化施設や社会教育施設を活用した学習活動	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館、美術館、博物館、資料館等における鑑賞活動を通しての郷土の歴史・文化の研究 ・生徒による発表会、展覧会の企画、運営、評価のまとめ、発表等
○地域の行事等を活用した学習活動	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の祭典における祭囃子や神楽等の研究と体験 ・地域の祭典における御輿や行灯等の研究と制作体験 ・地域行事におけるイラストマップ等の製作
○インターネット等を活用した学習活動	<ul style="list-style-type: none"> ・他県、他国の芸術や文化等についての研究 ・他校や海外の学校の生徒との作品の交流による相互理解
○多様な文化的背景を持つ題材を活用した学習活動	<ul style="list-style-type: none"> ・草木染め、陶芸、木工等の地域素材を活用した工芸品の製作 ・世界の諸民族及び我が国の伝統的な楽器等の製作、演奏 ・手漉き和紙づくり及び絵手紙の作成等と書の表現